



### 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	990	現地試験や打ち合わせのための職員の旅費
需用費	6,410	実験資材や薬品、実験機械の燃料や電気料などの実験費用
役務費	30	委託者との連絡、資料資材の輸送などの通信運搬経費
使用料	70	受託研究に必要な機器などの使用料
合計	7,500	

#### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

3 地域にあふれる魅力と活力づくり

(2) 次世代を見据えた産業の振興

#### (2) 過去の受託実績

年 度	件数	受託金額	備 考
平成 28 年度	16 件	5,778 千円	
平成 29 年度	7 件	2,223 千円	
平成 30 年度	11 件	4,222 千円	
令和元年度	10 件	3,705 千円	
令和 2 年度	6 件	2,484 千円	9 月 1 日現在

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中小企業等では実施が困難な研究課題を、企業等から受託して県の試験研究機関が実施することで、県内産業の技術向上・高度化・活性化を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
		(H )	(H )			
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

中小企業等では実施が困難な研究課題を、企業等から受託して県の試験研究機関が実施する研究であり、企業等の経営判断、企業体力、製品開発意欲等に影響されるため、指標の設定は困難。

### （前年度の取組）

・事業の活動内容

【令和2年度に受託した研究課題】（令和2年9月1日現在）

研究所名	課題名	受託額（千円）
産業技術総合センター	三味線の胴皮の素材開発	64
セラミックス研究所	複合材料の脱脂、焼成検討	900
生活技術研究所	木材乾燥における精油の生産性技術評価	330
	木製テーブルの不良低減に関する研究	400
	コーヒーノキの利用	350
	地域産小径広葉樹高付加価値化に関する研究	440
	(計)	2,484

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献した。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</li> </ul>	
(評価) ○	中小企業等では実施が困難な研究課題を解決する事業であり、必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価) ○	企業等が抱える課題を解決することで、企業等の技術力向上や新製品の開発等に貢献し、事業の有効性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価) ○	受託研究は、研究課題毎に委託企業等との綿密な打ち合わせをしながら実施しており、効率化は図られている。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 企業等が抱える幅広い課題に対応するため、試験機器の計画的な整備・更新を行う必要がある。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 企業等が抱える課題を解決し、新製品開発に貢献する等の有益性が認められることから、今後も継続実施する必要がある。</li> </ul>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	